



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

【酔生夢死】(すいせいむし)

無駄な人生を生きたことをたとえる



Lend a Hand

手を貸そう

2003.2004年度 国際ロータリーのテーマ

職業奉仕米山月間

第808回 平成15年10月 8日(水)

〔本日のプログラム〕

- | | |
|-------------|---|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. ローターソング | |
| 「我等の生業」 | |
| 3. 四つのテスト唱和 | 事 |
| 4. 食 | 事 |
| 5. 会長の時 | 間 |
| 6. 幹事報 | 告 |
| 7. 委員会報 | 告 |
| 8. 点 | 鐘 |

- 次回予告
- ★10月15日(水)
- フォーラム
- 【職業奉仕米山月間】
- 17・18日は地区大会
全員出席
- ★10月22日(水)
- ガバナー公式訪問
全員出席

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	中武 幹雄
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	林 厚雄
事務局	宮崎郡佐土原町大字下藤町3887-17	幹事	梶田與之助
	☎880-0212	会計	岩切 正司
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

第807回例会記録

(2003. 10. 1)

☆会長の時間

会長 中武幹雄君

皆さん今日は。本日は第807回の例会です。今日はガバナー補佐の鳥山 浩君をお迎えました。ガバナー補佐には本夜開催のクラブ協議会にもお出で頂くため、2回ご足労願う事になります。大変お疲れと思いますが、よろしく願い致します。

さて、去る9月27日(土)宮崎市のオルブライトホールに於いて、新世代フォーラムが開催されました。

話の内容は大変良くて、勉強になったのですが、参加者が非常に少なく、大変残念に思いました。当クラブより4名の参加でした。

クラブ協議会は先週もお伝えしましたが、18:00からで、2時間程度の協議会になる予定です。夕食は用意致します。先週配布しました「公式訪問報告書」をご持参願います。

先週はロータリーの倫理についてお話させて頂きましたが、今日は第12回国際大会の議事録から抜粋した、「ロータリー哲学」「その一」「アーサー・フレデリック・シェルドン」よりご紹介したいと思います。

カリフォルニア州の北部のシッソンの近くに三つの泉が湧き出しています。シャスタ山の万年雪に源を発しているため、泉が枯れる事はありません。三つの泉が合流して、一本の小川になり、その道すがら、泉や小川が又、合流し、力強い大河に育ち、サクラメント川になります。そして海に達するのです。

私達の尊敬する創立者は昼食を取るために、シカゴで3人の友人と会いました。彼らは何回も会合を重ねながら、友愛の喜びを味わい「人はパンのみにて生きるものに非ず」と云う諺の真意を悟ったのでした。そして人類愛の素晴らしさを現実のものとして感じ、例会を永久的なものとするべく、最初のロータリークラブが生まれたのでした。

彼らは、ウィリアム・モリスの言葉に「親睦は生であり、親睦の欠如は死である」と云う事を実感したのです。こうしてロータリーは、人づくり、企業作り、世界作りの大きな要素となって行き、このような建設的な影響力が流れの出発点となりました。

その活動が結果的には世界中に広がり、遙か彼方にまで達することが出来たのです。彼らは、ロータリアンとして公共的サービスをどのようにすべきか、例会毎に検討に検討を重ね、実行した結果、ロータリーは力を増して行きました。

ロータリーは全世界において、恒久的な思考をこの広大な海に培ったのでした。その影響力は、直接的にも、間接的にも極めて大きいものになって行きました。シカゴにおける例会という泉から流れ出した川が、建設的な考え方を身につけ、湾岸の潮流となり、海を渡り、兄弟愛という絆で大陸と大陸を結びつけました。

ロータリーは人を作り、事業を作り、地域社会を作る。更に世界すらも作る能力を持っている、と云う事です。

ポールや同僚の開拓者達がロータリーを始めた当時、認識していたよりも、もっと素晴らしいものに育っていったのです。人々はダマスカスに向かって旅立ち、偉大な法律家、ポールは偉大な光を見たのかも知れません。

源となっている、小さな三つの泉、この小さな出発が大きな可能性に繋がると云う事を学びました。

地域社会において、各々の企業が正しければ、地域社会に問題は無くなり、地域社会が正しければ、国に問題はなくなり、国家が正しければ、世界に問題はなくなります。これからも世界のロータリアンが奉仕の精神を基とした、行動をとることで、人類最大の目的、世界平和に貢献出来ると述べていました。

更に全世界が平和に緊密に結ばれる事を祈りつつ…。

一口ことわざ

(会長の時間つぶし談)

「人はパンのみにて生きるものに非ず」

旧約聖書の言葉で、人間は物質によってだけ生きているものではなく、自由な精神力によっても生きているものだと云うこと。

☆幹事報告

幹事代理 林 厚雄 君

1. 例会変更通知

西都RCより10月の例会案内が来ております。変更等はありません。

2. 韓国第3660地区・第3720地区(嶺南圏)

台風災害義援金のお願いがガバナーより、来ております。

先月、韓国直撃の台風14号が姉妹盟約関係にある第3660地区と第3720地区に多大な被害を与えており、第2730地区として両地区にお見舞いを致したい、鹿児島県北部豪雨災害見舞いに続いてのお願いで大変恐縮ですが、ご協力をお願い致します。との事です。

会計と協議して決めたいと思います。

☆出席報告

委員長 後藤 明夫 君

会 員 数	27名
例 会 出 席 者	22名
出 席 率	81%
メークアップ者数	2名
修 正 出 席 率	88%
欠 席 者 名	館 崎 輝 彦

ガバナー補佐がお見えの本日、1名の会員の退会の為、残念ながら、27名の会員数での報告になりました。

☆ご挨拶

ガバナー補佐 鳥山 浩 君

2003～2004年度の国際ロータリー第2730地区 宮崎県中部分区のガバナー補佐を承りました。宮崎中央RCの鳥山でございます。

最初に、先日行われました「新世代フォーラム」の参加ご協力、ありがとうございますました。

ガバナー補佐は、昨年度修正されました「地区リーダーシップ・プラン(DLP)」に則り、吉松ガバナーを補佐し、クラブがうまく運営できるよう手助けすることが大きな役目ですので、何なりと相談していただければ幸いです。

さて、この中部分区では8月より、ガバナーの公式訪問が始まっています。

今年度はクラブ協議会にはガバナーは出席せず、本日行われます。クラブ協議会に、私が代わりに務めますので、よろしくお願い致します。10月22日(水)のガバナー公式訪問時の例会に引き続いて、クラブフォーラム(車輪座談会)が行われます。役員・理事・各委員長さんは無論、出来るだけ多くの会員の皆様にご出席していただき、活発な発言をお願いいたします。

佐土原ロータリークラブが、今年度(中武年度)、素晴らしい成果を挙げられますよう祈念申し上げます。

10月のお祝い

会員誕生祝い

林 厚雄君 鬼塚 圭司君
福井 輝文君 太田 忍君

夫人誕生祝い

山脇 昭代さん 堀口 文代さん

結婚月祝い

池田 仁志夫妻 神宮寺利夫夫妻
山脇 忍夫妻 鬼塚 圭司夫妻
村岡 博夫妻 水浦 達博夫妻

以上の皆様、お祝い申し上げます。

☆会員卓話

正岡文郁君

「托鉢」について

今回は「接心」についてお話しましたので今回は托鉢についてお話致します。

禪堂生活の目的は坐禅と入室(参禅)の繰り返しによって、無始却来(ムシカライ) (掛り触れぬ)の煩惱妄想の皮を一枚ずつ剥ぎ取る事です。剥いで剥いで剥ぎ尽くして、自己本来の純粹性に目覚めることであり、そうして坐禅蒲団の上で死にきる、公案三昧の体験であります。

寝ても覚めてもいつでもどこでも、与えられた問題について練るのです。これを禅門では、正念相読とか動中の工夫とかいいます。「動中の工夫は静中の工夫にまさること百万億倍」といいますが、この動中の工夫の一つに托鉢があります。

普通、大抵の道場では、一・六・三・八の日が托鉢です。托鉢には分衛(ワネ)といって三人一組となって歩く場合と、十数人づつ一列になってする連鉢があります。私の場合は、神戸の祥福寺という道場で五十人程、雲水(修行僧)がいましたので、後者の方が大部分でした。まさに釈尊伝来の乞食行であります。「乞食の親玉」ですね。貧乏してもコジキにはならないという子供の頃の夢とは裏腹に始めて「祥福僧堂」と染めぬいた、看板袋をかけ、雨風を問わず、素足に草鞋がけで「ホオ」「ホオ」と連呼しつつ、一列になって歩き続けるのです。喜捨を求めて歩くことは未だ生意気盛りの娑婆気が抵抗し、恥ずかしさ一杯で満足な声はでない。先輩に叱られて、吼えたりけれど、彼等の流暢な追分調とはなんと程遠い奇声でありましょう。

しかし、こうした間にも有難いもの、古参、新米の区別なく、一様に喜捨を受けているといつか心は大気のように爽やかになり、卑下の心も増上慢も地に捨てて、托鉢専一となります。施す者も受ける者も一面識なく、名も

知りません。只、合掌。何のこだわりもなく、やがて水の流れの心境になっていくのです。ところが、時には「ホオ」「ホオ」と歩いていると「ウルサイ」と云ってトマトの食いかけを顔目がけてぶつけられた事もあり、又、石を投げられた事もあります。その様な時には特に丁寧に頭を下げ過ぎて過ぎ去ります。忍辱の修行です。嬉しかった事もあります。私が最後のおさえ手(おさえ)で一番後ろを歩いていた時に、いきなりオビをもって路地へ引張込まれた事があります。吃驚したのですが、「ご苦労様です。寒いでしょう。一杯やって下さい」と「ドブク」を差し出され、一口にいただいた時の美味しかった事その味は四十年程も経った今でも忘れられません。

托鉢はこのように社会の人々に貴い仏縁を結ばせるばかりでなく、又修業者自身の開悟の機縁となる所にも意義があるので。

有名な白隠禅師の大悟徹底もかの信州飯山の正受老人の所で托鉢中に起こったものと聞いております。見性脱落(けんじょうだつ)は禅堂において生ずるばかりではないのです。

十一時前、托鉢はピタリと打ち切り、まっすぐ帰路に向かいます。祥福寺の境内に入れば一斉に綱代笠をぬぎ、玄関前に近づくと引き手(ひきて)はお経を始めます。そしてこの日の各自の所得はたとえ一粒一銭といえども私することなく、全部会計に提出するのです。これはやがて、食平等(じきびょうどう)の掟に従って一切生活の糧に当てられていくのです。

要するに托鉢の持つ大きな意義はこの経済的な物質面よりも市中の人々に布施離欲の機会を与え、一方自分の忍辱没我の修業のために行われるという方が重要であって、正に自利利他、円満の行というべきであると思えます。

世の中には修業中のような恰好をして一人で歩いている「ニセ者」の修行僧、つまり、「本物のコジキ」もおられますので、お気をつけ願いたいと思います。

今日はこの辺で失礼させていただきます。